

## 散策ルート 2(史跡の丘・オレンジコース)



- 1.ホルトノキ(白山神社跡)
- 2.菊池寛が借りていた大津の家
- 3.東京湾要塞地帯標
- 竹澤厄除観世音
- 4.貞昌寺(臨済宗)
- 6.竹沢堰跡
- 7.向井将監正方夫妻の墓碑
- 8.貞昌寺別院(臨済宗)
- 9.安房口神社
- 10.大塚復元古墳
- 11.池田巡拝塔

浦賀道



## 1.ホルトノキ(白山神社跡)



京急大津駅・大津行政センターから徒歩約1分。

京急大津駅前の山すそに五穀の神として信仰されていた白山神社跡があり、大きなホルトノキが見られます。

神社の御神木は、幹の胴回りが約6mもあり、樹齢千年以上、三浦半島随一の古木ともいわれています。

ナンジャモンジャの木とも呼ばれるモガシで、三浦・房総半島が北限の植物です。白山神社は大正13年に諏訪神社に合祀されました。

## 2.菊池寛が借りていた大津の家

馬堀にあった婦人会館の道路をはさんだ向かいに、菊池寛が家を借りて住んでいました。

小説『不壊の愛』に、婦人会館の庭のことが「二階から見下す隣家の庭」として書かれています。



(↑婦人会館)

### 3.東京湾要塞地帯標

婦人会館から約 200m 京急大津駅寄り。

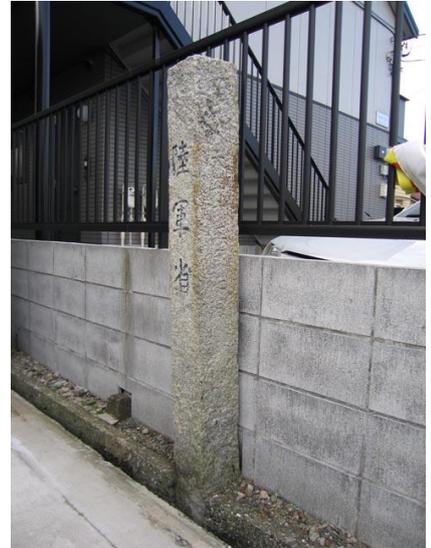
明治政府により首都が東京に移されてから東京湾の防備が一層重要になりました。

明治 32 年(1899)要塞地帯法が公布され、三浦半島は全域が要塞地帯に指定されました。

同時に軍機保護法が公布され、写生・写真撮影及び軍施設への立入り等が許可制になりました。

特に、走水近辺は一般の道路も自由に通行できなくなりました。

要塞地帯を示す石標が大津二丁目に残っています。



### 竹澤厄除観世音

石渡家敷地のお堂に祀られている厄除観音は檜の寄木造りで御丈一尺五寸(四五 cm)金箔を戴く十一面観世音菩薩です。

文政八年(一八二五)に当家の先祖で大津村の名主・石渡源左衛門が記した地誌御調書帳によれば行基の作といわれ源左衛門の守り本尊として貞昌寺境外の観音堂に祀られていました。

観音様は飢饉や災害時などには竹澤の里の人々の心のより処として広く信仰を集めました。

お堂の脇の石碑には『竹澤の里の仲居に観世音深き願いを得るぞ嬉しき』と詠歌が刻まれています。この観音堂は昭和八年京浜急行(当時の湘南電鉄)の開通に伴い移転され、後に屋敷内のお堂に安置されました。

場所は京急大津駅より徒歩 1 分位です。私人宅敷地内なので大津行政センターコミュニティ担当にお問合せください。



## 4. 貞昌寺(臨濟宗)

京急大津駅から徒歩約 7 分。



(↑ 延命地蔵尊菩薩)

建武 2 年(1335)円覚寺の南山士雲禅師が開山したといわれます。

寺伝によれば本尊は運慶の作と伝えられる地蔵菩薩で、三浦地蔵尊第 28 番札所に数えられ、12 年毎の卯年にだけ開扉されます。

寛文 3 年(1663)御舟奉行であった向井将監正方は母が逝去したとき、吸江庵を貞昌寺と改め、堂宇を再建しました。

寺の前に 52 基の庚申塔群があり、造塔の由来を記した貴重な文字塔もあります。

### < 貞昌寺谷戸横穴群 >

昭和 26 年、故赤星直忠博士により貞昌寺の東谷で 11 穴、西側の貞昌寺谷戸で 4 穴の横穴群が調査されました。

同 59 年、横須賀市自然・人文博物館の分布調査では、東谷 15 穴、貞昌寺谷戸 1 穴、谷戸奥にやぐら 1 穴が確認されています。

この横穴群は古墳時代後期のものと推定されています。

## 6.竹沢堰跡

京急大津駅から徒歩約 10 分、貞昌寺公園隣。

昔、大津には多くの水田と堰(溜め池)がありました。

竹沢堰の大きさは東西 16m、南北 36m でしたが、現在は堰の一部が防火用水として残るのみです。



(↑現在の竹沢堰)

当時は貞昌寺の奥まで水田が作られていたことが判ります。

他に宮の堰、谷戸堰、宮ヶ谷堰、新堰、井田堰、大坊堰、柿ヶ谷堰などがありました。

## 7.向井将監正方夫妻の墓碑

向井将監正方は寛永 18 年 (1641)に江戸幕府の御舟奉行となり江戸湾の海防に当たりました。

大津、森崎、小矢部、金谷、池上、不入斗を知行地とし 2 千石を拝領していました。

正方は延宝 2 年(1674)に没し、墓は江戸の見える所にとの遺言で貞昌寺の裏山に建てられました。



現在、正方夫妻の墓碑は貞昌寺の境内にあります。

## 8. 貞昌寺別院(臨濟宗)



(↑ 阿弥陀三尊)

貞昌寺は古くは吸江庵とよばれ、現在の桜が丘一丁目の貞昌寺別院の敷地にありました。

本尊は阿弥陀如来三尊で、昔、根岸にあった南光山明動院の本尊でしたが、明動院は火災で消失しました。

三尊は難を逃れ、下寺の正観寺の本尊となり、後に貞昌寺に安置されました。

昭和 59 年、この阿弥陀如来を本尊とする別院が創設されました。

## 9. 安房口神社



(←御神体の安房石)

安房口神社バス停下車。

吉井の鎮守様で、社殿はなく御神体には大きな自然石が鎮座しています。

昔、山や巨石、大木などに神が降臨するという自然崇拝がありました。

この石は房州の安房神社から飛来してきたという伝説があり、石にある直径約 40cm の穴は安房の方に向いているといわれます。

豊作や安産の神として信心され、北条政子が懐妊の時、安産祈願をした記録が残っています。

古東海道の要衝と伝えられ、日本武尊が武運祈願をしたといわれています。

## 10.大塚復元古墳

大塚台小学校隣。

大塚古墳群は故赤星直忠博士により、大正 13 年に発見されました。

昭和 27 年には古墳群の中で最大規模の大塚古墳(1 号墳)が発掘され、棺床部からは直刀、刀子、鉄のやじり、耳環、ガラス小玉、須恵器などが出土しました。



(↑大塚古墳一号墳)

平成 4 年から翌年にかけて再び発掘調査が行われ、大塚古墳が全長 31.3m、後円部径 18.8m で、古墳時代後期としては三浦半島最大級の前方後円墳であることが確認されました。

大塚古墳の周囲からは前方後円墳 2 基と円墳 3 基(2 号～6 号墳)も発掘され、大塚古墳群が三浦半島では最大規模の古墳群であることも判明しました。

また縄文時代早期の集落跡が発見され、太平洋戦争中の高射砲陣地跡などもありました。

吉井池田土地区画整理事業によりこれらの遺跡は姿を消しましたが、近接地に古墳群の象徴である 1 号墳が、ほぼ当初の規模・形態で復元されています。

## 11.池田巡拝塔

北久里浜駅から徒歩約7分、池田踏切近く。

「西国、坂東、秩父、百番観世音菩薩巡拝供養塔」という巡拝塔は、天保9年(1838)に大津村の戒珠という文人が建てたものです。

ここには11基の庚申塔がありますが、ほとんどが三猿駒型の文字塔(青面金剛)です。



庚申塔の礎石前面に建立した人の名前が刻まれており、池田の出身で初代三浦郡長を務めた小川茂周の名もあります。

## 浦賀道



享保5年(1720)伊豆下田から浦賀に奉行所が移されると江戸と浦賀の往来が盛んになりました。

三浦往還として東海道・戸塚宿からの浦賀道は、鎌倉、木古庭、衣笠を經由し浦賀に至りました。

江戸湾沿いの浦賀道は、保土ヶ谷宿から金沢道を経て、浦郷村、十三峠を越えて大津、浦賀へ至る道でした。

陸路は難所が多かったため、武州金沢から海路が多く利用されました。